

3. 保健科学部門(微生物)

1) 細菌担当

平成 17 年度に実施した試験検査業務は、保健所から依頼される食中毒・有症苦情検査、無症苦情検査、その他に市民や行政から依頼される細菌検査である。

これらの検査数は表 1 のとおりである。

表 1 試験検査数総括

区分	計	依頼検査	
		行政	一般
総 計	712	682	30
食中毒・有症苦情	669	669	
無症苦情	6	6	
その他	37	7	30

(1) 食中毒・有症苦情検査

平成 17 年度は、62 事例、669 検体について食中毒・有症苦情検査を行った。これらのうち原因が推定できたものは 36 件、判明率は 58.1 % であった。

原因が推定できたものの内訳はカンピロバクター 12 件、サルモネラ 3 件、腸炎ビブリオ 1 件、黄色ブドウ球菌 1 件、ウェルシュ菌 1 件、下痢原性大腸菌 1 件、ヒスタミン 1 件、ノロウイルス 16 件であった。

詳細は資料に、検査項目数 3,860 の内訳は表 2 に示した。

なお、ノロウイルス等ウイルス性食中毒検査の詳細は、3) ウィルス担当に掲載。

(2) 無症苦情検査

平成 17 年度は、4 事例、6 検体について検査を行った。詳細は資料に、検査項目数 10 の内訳は表 3 に示した。

(3) その他

その他依頼検査の内訳を表 4 に示した。

表4 依頼検査の内訳

区分	検体数	検査項目(件数)
海藻サラダ	1	一般細菌数(1) 大腸菌群(1)
えびフライ	1	一般細菌数(1) 大腸菌群(1)
河川水	1	0157(1) 糞便性大腸菌群(1)
飲料水	4	一般細菌数(4) 大腸菌群(4)
魚粉	2	サルモネラ(2)
菌株	28	サルモネラ(28)
計	37	(44)

表2 平成17年度 食中毒・有症苦情 検査項目内訳

検 体 数	計	検査項目																大腸菌群	ブドウ球菌	カビ・酵母	その他
		サルモネラ	腸炎ビブリオ	コアグラーゼ陽性	ブドウ球菌	腸管出血性大腸菌	病原性大腸菌	ウェルシュ菌	セレウス菌	エルシニア	カンピロバクター	NAGビブリオ	ビブリオフルビアリス	エロモナス	エロソブリア	ブレシオモナイデス	一般細菌数				
計	669	3,860	595	264	445	130	91	307	339	226	348	226	225	33	33	84	510	2	2		
ヒト便・吐物	421	3,036	374	226	295	94	84	278	271	220	272	219	218	30	30	81	342		2		
菌 株	15	15	13													2					
食品(残物・参考品)	72	275	63	13	44	12	3	14	29	6	24	7	7	3	3	3	42	2			
ふきとり	161	534	145	25	106	24	4	15	39		50						126				

表3 平成17年度 無症苦情 検査項目内訳

検 体 数	計	検査項目																大腸菌群	ブドウ球菌	カビ・酵母	その他
		サルモネラ	腸炎ビブリオ	コアグラーゼ陽性	ブドウ球菌	腸管出血性大腸菌	病原性大腸菌	ウェルシュ菌	セレウス菌	エルシニア	カンピロバクター	NAGビブリオ	ビブリオフルビアリス	エロモナス	エロソブリア	ブレシオモナイデス	一般細菌数				
計	6	10														4	2	4			
ヒト便・吐物																					
菌 株																					
食品(残物・参考品)	6	10														4	2	4			
ふきとり																					

2) 感染症担当

感染症担当が平成 17 年度に実施した不定期検査は「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」(以下感染症法と略す)に基づく防疫検便、市民依頼の井戸水等細菌検査、ダニ等の衛生害虫検査、及び菌株等の依頼検査であり、表 5 に検査検体数と項目数を示した。

表 5 不定期検査検体数総括

業 務 名	検体数	項目数
感染症新法に基づく防疫検便	1,050	1,178
井 戸 水 等 細 菌 検 查	2,781	5,280
衛 生 害 虫 (室 内 霧)	1	3
計	3,832	6,459

感染症法に基づく赤痢、チフス、コレラ、腸管出血性大腸菌等感染症発生および海外旅行下痢症等に伴う防疫検便は 1,050 件であった。

真性患者が発生した事例は、赤痢 2 事例、腸管出血性大腸菌 10 事例(健康保菌者含む)で、その他の事例はなかった。(事例一覧は資料に掲載)

平成 17 年度の福岡市における腸管出血性大腸菌感染症は O157 によるものが 31 事例感染者 38 名、以下 O26 が 5 事例 9 名、O91 が 2 事例 2 名、O152 が 1 事例 1 名、O8 が 1 事例 1 名、及び OUT が 6 事例 7 名の計 46 事例 58 名であった。

さらに今年度は、腸管出血性大腸菌との O 抗原一致による VT の確認依頼や、ノロウイルスとの重複感染疑いによる陰性確認の依頼等、本来業務とは異なる業務が 5 事例 10 名あった。

(1) 感染症法に基づく防疫検便

表 6 不定期腸内病原菌検査依頼別検体数

区 分	計	東	博多	中央	南	城南	早良	西
計	1,050	55	250	100	497	20	75	53
赤 痢	49	15	2	16	13	1	2	-
チ フ ス	7	1	-	3	-	-	2	1
パ ラチフス	-	-	-	-	-	-	-	-
コ レ ラ	2	-	1	1	-	-	-	-
E H E C	920	37	247	12	483	19	70	52
海外旅行下痢症	4	2	-	-	1	-	1	-
原因不明下痢症	68	-	-	68	-	-	-	-

(2) 市民依頼の井戸水等検査

飲料水の細菌検査は、井戸水 1,525 件、浄水 438 件、その他 818 件であり(表 7)、井戸水は一般家庭とボーリング業者からの依頼、浄水は主として「建築物における衛生の確保に関する法律」に基づくものである。

なお、それぞれの不適件数は、井戸水 308 件(20.1%)、浄水 10 件(2.2%)、その他 28 件(3.4%)であった。

(3) 卫生害虫検査

平成 17 年度の衛生害虫(室内塵)の検査依頼は 1 件 3 検体であった。苦情の内容は、ビル内の改装に伴い、そこで働いている人達に、クシャミや痒み等のアレルギー様症状がでた、というものである。検体そのものには、アレルギーを引き起こすようなダニ類は検出されずハウスダストによる症状であることは否定された。

表 7 市民依頼の井戸水等検査件数及び不適件数

区 分	計	井 戸 水	净 水	そ の 他
計	2,781(344)	1,525(308)	438 (10)	818 (28)
東	354 (34)	243 (54)	62 (2)	49 (2)
博多	318 (24)	75 (20)	51 (1)	192 (3)
中央	338 (16)	37 (8)	80 (0)	221 (8)
南	578 (97)	423 (89)	57 (5)	98 (5)
城南	246 (20)	134 (20)	42 (0)	70 (0)
早良	437 (52)	275 (49)	103 (0)	59 (3)
西	508 (77)	338 (68)	41 (2)	129 (7)
研究所	2 (0)	0 (0)	2 (0)	0 (0)

()は不適件数

3)ウイルス担当

平成 17 年度に実施した試験検査業務は、保健所から依頼される食中毒・集団感染のウイルス検査である。

(1)食中毒・集団感染のウイルス検査

平成 17 年度は、27 事例(148 検体)について、RT-PCR 法、リアルタイム PCR 法、ダイレクトシーケンス法等でウイルス検査を行い、19 事例(68 検体)からノロウイルスを検出した(表 8)。

表 8 ノロウイルス検出状況 (平成 17 年度)

月	4	5	6	10	11	12	1	2	3	計
検体数	2	17	6	8	9	14	34	16	43	148
陽性数	0	12	0	0	1	8	22	12	13	68